

令和 8 年度 事業計画

令和 8 年度は、近年の物価及び人件費等の高騰の影響により、光熱水料費をはじめとする経常費用の増加が見込まれ、公社の経営に影響することが予測される。

また、フェリーを運航する船会社においても、人件費や燃油価格などの運航経費が上昇する中で、働き方改革に伴う物流業界の 2024 年問題などの諸課題に加え、気候変動等による農水産物の生産量減少に伴うトラック輸送量の低迷など、益々厳しい経営状況となることが想定され、当公社の主な財源である棧橋等賃貸料についても、将来にわたって安定的という保証はなく、見通しは不透明である。

青森港及び八戸港においては、埠頭施設の老朽化への対応が必要な時期を迎えていることに加え、カーボンニュートラルポートの実現、フェリー運航作業の効率化と安全性向上を図るための情報通信技術の導入、近年頻発する大規模災害への対応など、限られた財源の中で、将来を見据えたフェリー利用の円滑化や機能の向上、安全性や利便性の向上を着実に進めることが求められている。

これらのことを踏まえて、令和 8 年度当初予算の編成に当たっては、フェリー埠頭利用者の安全を最優先に、緊急性及び事業の継続性を考慮しながら真に必要な事業及び事業費を的確に把握及び精査して見積もることとする。

【 基本方針 】

(1) 将来を見据えた事業展開

社会情勢の変化に伴う諸課題に適切に対応するため、将来を見据えた新たな取組について、経営の安定に配慮しつつ、費用対効果を検証しながら計画的かつ効率的に展開していく。

(2) 施設の適正な維持管理

老朽化が進む施設・設備の維持管理及び修繕等においては、事務の効率化、施設の長寿命化、フェリー埠頭及び航路の維持発展につながる事業となるよう、漫然と従前どおりのやり方を継続することなく、事務事業の見直しや廃止の検討を徹底する。

(3) フェリーの利用促進

観光客の旅行形態が体験・滞在を重視した個人化・小グループ化への傾向が強まる中、利用者ニーズに対応するフェリーの魅力や利便性などに関する情報発信等のフェリー利用促進に向けた取組を進める。

(4) 事業の重点化

特に重点的に取り組む事項を定め、これに基づく具体的な事業を企画立案し、事業効果が最大限発揮できるよう取組を進める。

重点項目

- ・維持管理計画の再構築
- ・フェリー利用の促進

【 定款に定める目的及び事業 】

青森港及び八戸港のフェリー埠頭及びフェリー埠頭の円滑な利用を確保するために必要な施設の建設、賃貸及び管理運営を目的及び事業とする。

《 公益目的事業 》

1 施設の維持更新計画

(1) 修繕工事実施計画

- ・ 青森港 (修繕費 18,200千円)
駐車場区画線修繕工事等を行う。
- ・ 八戸港 (修繕費 65,500千円)
埠頭施設の災害復旧工事等を行う。

(2) 固定資産取得等（施設整備）実施計画

- ・ 青森港 (資産取得 184,000千円)
駐車場舗装・消雪配管更新工事等を行う。
- ・ 八戸港 (資産取得 373,850千円)
第1バース可動橋更新工事等を行う。

2 埠頭の運営

(1) 棧橋等賃貸

船社別就航等の計画は、次のとおりである。

- ・ 青森港

区分 船社名	航 路	就航船数 (隻)	便数 (便)	就航 トン数	年間接岸 トン数見込	備 考
津軽海峡フェリー(株)	青森⇄函館	3	6	53,042	18,229,606	・利用バース数 4バース
	青森⇄室蘭	1	1	8,897	2,998,289	
青 函 フェリー(株)	青森⇄函館	4	8	21,986	7,683,256	
合 計		8	15	83,925	28,911,151	

- ・ 八戸港

区分 船社名	航 路	就航船数 (隻)	便数 (便)	就航 トン数	年間接岸 トン数見込	備 考
川崎近海汽船(株)	八戸⇄苫小牧	4	4	37,463	13,208,083	・利用バース数 2バース

(2) 土地賃貸

船舶の運航に必要な係留作業員及び荷役作業員詰所及び荷捌き場等の敷地を賃貸する。
船舶用燃料タンク施設の敷地を賃貸する。

(3) 建物賃貸

船舶を利用するための窓口、切符売り場、事務所等を賃貸する。
船舶利用者の利便性向上を図るため待合所、食堂、売店等を賃貸する。

《 収益事業 》

フェリー埠頭施設賃貸

青森港及び八戸港のフェリー埠頭施設の一部について、公益目的事業の実施・運営に支障のない範囲で有効活用を図ることとし、土地及び建物等を賃貸する。